

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第6回テーマ 戦術の重要性「美濃和紙で靴下を作って大儲けした例」

今回は、戦術の重要性「美濃和紙で靴下を作って大成功した例」の説明をさせて頂くが、高知県の特産品には土佐和紙がある。高知県の和紙製造業者の皆様も是非ともこれを参考にして頑張ってもらいたい。土佐和紙も頑張れ！！

「和紙で靴下」を作って大成功

1) 当時の環境（和紙は洋紙に押されて売れなくなり事業はギリ貧）

和紙は洋紙に押されて売れなくなり事業として成り立たなくなっていた。

このままでは折角の技術が廃れるし、事業はギリ貧である。

2) 成功した環境適応勝利戦略（「和紙製造技術を和紙製造以外にも使う」戦略）

女性和紙職人の市原慶子さんは32歳の時（今は63歳）に福祉の勉強でアメリカ留学、美濃和紙の魅力を見直した。和紙の技術を和紙製造だけに使っているのはこの先は事業として成立しない。そこで市原さんが作ったのはなんと美濃和紙の靴下。これが大人気である。靴下を作った理由は最も難しいチャレンジだと思ったからとのこと。素晴らしいチャレンジ精神である。普通の方ならたやすい方になびくだろう。

3) その戦略を成功させる為の勝利戦術（「水に強く洗濯機で洗える和紙の開発」戦術）

紙は水に弱いので靴下等には向かない。この水に弱いという欠点を改良しなければ和紙の将来はないと考えて、水に強い洗濯機で何度でも洗える強度抜群の和紙糸を開発する戦術を策定・実践した。和紙を細かく切ってよった糸を、織ったり編んだりする過程で、独自の加工剤を加えることで、洗える水に強い靴下ができた。

開発した和紙糸の強度は圧倒的。何度も改良15年かけて今の糸になった。このお陰で靴下以外の日用品も作ることが可能になった。今は靴下以外の肌着等も作っている。

4) 成果（売れて品切れ状態。夏涼しく、冬暖かい、抗菌、消臭効果がある水虫を防ぐ靴下ができた）

紙の靴下の特徴は普通の靴下より吸湿性が優れていること。この元々の特徴である吸湿性を活かして作った。ドイツから注目を浴びた市原さんの思いが詰まった美濃和紙の靴下、吸湿性はコットンの6倍とのこと。

これに洗濯でも何度でも洗えるという紙の欠点を補う靴下ができたので、夏涼しく、冬暖かい、抗菌、消臭効果がある水虫を防ぐ靴下ができた。

現在は注文に生産が追いつかず品切れ状態である。お先真っ暗から将来性抜群の事業に変わった。

5) 成功要因

和紙製造技術を将来的に需要が見込まれる靴下に使ったこと（使う先を変えたこと）が成功要因である。そのために和紙の弱点である水に弱いという点を改良したこと。

6) 著者より一言（土佐和紙でも作れる）

土佐和紙では靴下は作れないのか？強度が弱いのか？水に強くできないのか？

発想の転換が必要である。土佐和紙も頑張れ！

＜ 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） ＞